

救命救急センタープログラム

【研修目標（研修内容）・到達目標】

【研修目標】

我々の施設では「国民に良質で安心な標準的医療を提供できる」救急科専門医を育成目指している。その目的として具体的には、第一に急病や外傷の種類や重症度に応じた総合的判断に基づき必要に応じて他科専門医と連携し、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めるためのコンピテンシーを身につけることである。そして第二は急病で複数臓器の機能が急速に重篤化する場合、あるいは外傷や中毒など外因性疾患の場合には、初期治療から継続して根本治療や集中治療においても中心的役割を担うことができ、さらに地域ベースの救急医療体制、特に救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、加えて災害時の対応にも関与して地域全体の安全を維持する仕事を担うことができる知識と技術を持った医師となる事である。

【到達目標】

- 1) 様々な傷病、緊急度の救急患者に、適切な初期診療を行える
- 2) 複数患者の初期診療に同時に対応でき、優先度を判断できる
- 3) 重症患者への集中治療が行える
- 4) 他の診療科や医療職種と連携・協力し良好なコミュニケーションのもとで診療を進めることができる
- 5) 必要に応じて病院前診療を行える
- 6) 病院前救護のメディカルコントロールが行える
- 7) 災害医療において指導的立場を発揮できる
- 8) 救急診療に関する教育指導が行える
- 9) 救急診療の科学的評価や検証が行える
- 10) プロフェッショナリズムに基づき最新の標準的知識や技能を継続して修得し能力を維持できる
- 11) 救急患者の受け入れや診療に際して倫理的配慮を行える。
- 12) 救急患者や救急診療に従事する医療者の安全を確保できる。

専攻医は研修期間中に以下の基本的診療能力（コアコンピテンシー）も習得できるように努める。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者やメディカルスタッフとのコミュニケーション能力を磨くこと
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること
- 3) 診療記録の適確な記載ができること
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師やメディカルスタッフに教育・指導を行うこと

【後期研修医基本モジュール】

研修領域ごとの研修期間は、重症救急症例の病院前診療・初療・集中治療（クリティカルケア）診療部門 12 か月、ER 診療部門 12 か月、（初期臨床研修における研修領域に応じて、あるいは救急科専門医取得以降の修練希望領域に応じて）外科・整形外科・脳外科のいずれかを 3 か月、麻酔科・循環器内科・小児科・放射線科のいずれかを 3 か月、クリティカルケア診療部門（希望に応じてド

クターヘリ研修・特殊災害医療対応施設研修（3か月まで）を含む）またはER診療部門を6か月とする。

総括すると下記4つのモジュールが研修プログラムの基本である。

- 1) クリティカルケア（基幹研修施設6か月以上を含む）12か月
- 2) ER研修9か月
- 3) 初期臨床研修経験と専門医取得以降の修練希望領域に基づいた他科研修6か月
- 4) その後①クリティカルケアコース、②Acute careコース、③ER研修コース（オプションとしてドクターヘリ・特殊災害研修最大3か月までを含む）、
④整形・traumaコースの6か月間研修または⑤大学院・博士課程コースと将来のキャリア形成にあわせて希望する進路に分かれる。

【後期研修1年目のカリキュラム】

**基幹研修施設である兵庫医科大学救命救急センターでのクリティカルケア研修。
12ヶ月**

- ① 研修到達目標：救急医の専門性、独自性に基づく役割と多職種連携の重要性について理解し、救急科専攻医診療実績表に基づく知識と技能の修得を開始する。
またわが国ならびに地域の救急医療体制を理解し、MCならびに災害医療に係る基本的・応用的な知識と技能を獲得する。
- ② 指導体制：救急科指導医、専攻医によって個々の症例や手技について指導、助言を受ける
- ③ 研修内容：兵庫医科大学救命救急センター内で上級医の指導の下、重症外傷、中毒、熱傷、意識障害、敗血症など重症患者の初期対応、入院診療、退院・転院調整を担当する。
ドクターカーやマスギャザリングイベント（市民参加型マラソン、大型花火大会等）の医療支援を中心とした病院前診療も担当する。また、外傷を初めとした症例登録を日常的に実施し、市民への救急蘇生講習も担当する。

【後期研修1年目の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、以下のいずれかのコースで他部署研修を、希望により行うことができる。

- ・総合診療センター、下部消化管外科、肝・胆・膵外科、脳神経外科、消化管内科、麻酔科・疼痛制御科、ICUのいずれかで3ヶ月間研修するコース
- ・総合診療センターで年間を通して月2回の外来研修を行うコース

【後期研修医2年目のカリキュラム】

連携病院ER部門（県立加古川病院、北播磨医療センター、県立淡路病院、加古川市民病院または製鐵記念広畑病院）でのER研修9か月。

- ① 研修到達目標：初期救急から重症救急を一括して診療する体制を有する（いわゆるER）施設において、救急受け入れの指揮や部門全体の運営ができる。救急関連領域全般の知識と技能を向上させ、救急診療における緊急度把握能力と多職種・多部門連係のための調整能力をさらに高める。
- ② 指導体制：救急部門専従の救急科指導医、専門医によって、個々の症例や手技について指導、助言を受ける。
- ③ 研修内容：上級の救急医および各診療科の専門医の助言支援体制の下、初期救急から

重症救急に至る症例の初期診療を実践する。また消防局出向による救急隊指導医勤務や救急安心センター相談医勤務を通じて、地域 MC 体制を把握し、プロトコル策定や検証、オンライン MC 業務に参加する。また連携病院内の研修オプションとして、最大 3 ヶ月、眼科、耳鼻科、小児科等の救急外来診療に係わる診療科の研修を行うことができる。

残りの 3 ヶ月については ER 研修を兵庫医科大学総合診療センターで行うことも出来る。

【後期研修医 3 年目のカリキュラム】

3 年目（前半 6 か月）：兵庫医科大学病院または神戸大学病院（他科研修）

① 研修先診療科

兵庫医科大学：脳外科・心臓血管外科・消化器内科・消化器外科・麻酔科・形成外科・循環器内科・放射線科・整形外科・集中診療科

神戸大学医学部附属病院：肝胆膵外科・食道胃腸外科

② 研修到達目標：各診療科の基本的知識と技能(特に救急疾患)を習得する。

③ 指導体制：外科または整形外科、麻酔科または内視鏡（消化管内科）または

Interventional Radiology (IVR)、循環器科の指導医、専門医によって、個々の症例や手技について指導、助言を受ける。

④ 研修内容：上級医の指導の下、外科では外科的基本的知識と創処置技能修得のために手術の術者、助手を経験し、また術前術後管理に携わる。内視鏡と IVR も、上級医の指導の下で外来あるいは入院中の検査予約患者を中心に実施し、適宜急患の緊急止血術を経験する。麻酔も上級医の指導の下、主に気道確保手技に関する技能を修得する。循環器科は、循環器疾患の病態生理と治療について習得する。

3 年目（後半 6 か月）：

兵庫医科大学病院救命救急センターでクリティカルケアコース、Acute Care Surgery コース、ER コース（オプションとして製鐵記念広畑病院でのドクターヘリ研修・特殊災害研修最大 3 か月までを含む）、整形救急・外傷コースまたは、大学院博士課程コースの 5 つのコースから希望により選択する。

① 研修到達目標：クリティカルケア、外傷救急ないし ER における実践的知識と技能を習得する。また大学院入学により博士課程において医学研究を行う。

② 指導体制：救急部門専従の救急科指導医、専門医、指導教官によって、個々の症例や手技について指導、助言を受ける。

③ 研修内容：上級医の指導の下、救急患者の病院前診療、外来・入院患者管理を実践する。

また製鐵記念広畑病院研修選択の場合にはドクターヘリ診療を経験する。また、MC 体制下での指示を指導医とともに実施する。

大学院博士課程では指導教官の指導の元に研究テーマを決め医学基礎研究を行う。

【カンファレンス・症例検討会】

毎朝、全新入院患者と問題症例の症例提示によるカンファレンスを実施する。

重大な問題が発生した症例や予想外の転帰を取った症例は別途カンファレンスを行う。

剖検が行われた場合は CPC に参加する。毎週 A i カンファレンス（死後の画像診断、特に CT 画像）を実施し早期死亡症例についても討議する。

EICU-NST（栄養サポートチーム）、院内 NST、Rapid response team への参画を推奨する。

【その他研修要件・6年目以降の体制・関係学会の内容】

6年目以降は専門医試験を受けて、救急科専門医（日本救急医学会）・集中治療専門医（日本集中治療医学会）と同時にサブスペシャリティ専門医（内科、外科、整形外科）などを修得する事を目指す。

日本救急医学会 救急科専門医 (<http://www.jaam.jp/html/listofnames/sen-kisoku.htm>)

日本集中治療医学会 集中治療専門医 (<http://www.jsicm.org/rules/rule11.htm>)

日常診療の中ではサブスペシャリティグループ（救急腹部外科・整形外傷外科・内科救急集中治療／救急循環器科・救急中枢神経科）に属して研修と研究を行います。一方で病棟医長、外来医長としてマネージメント研修も行う事になります。

【連携病院】

神戸大学医学部附属病院（外科、神戸市）、加古川市民病院（救急科、加古川市）
製鐵記念広畑病院（救命救急センター、姫路市）、県立加古川病院、北播磨医療センター、
県立淡路病院

【指導医（職名：氏名）】

主任教授：平田 淳一（指導責任者） 准教授：大家 宗彦

講師：宮脇 淳志 講師：小濱 圭祐 助教：白井 邦博 助教：小林 智行

助教：満保 直美 助教：福田 雄一

【研修統括者】

講師：宮脇 淳志

【問い合わせ先】

兵庫医科大学 救命救急センター 医局

TEL：0798-45-6514

FAX：0798-45-6813

E-mail：em119@hyo-med.ac.jp（医局）

URL：<http://www.hyo-med.ac.jp/department/er/>

担当者：宮脇 淳志・白井 邦博

お気軽にご連絡下さい。